

## 沖縄からの平和アピール

1945 年太平洋戦争の末期、沖縄に上陸した米軍と日本軍との激しい地上戦が行われた。

地形が変わるほど激しく降り注ぐ砲弾と「考えられるこの世の地獄を集めた」と比喻された沖縄戦は、20 数万人の尊い命を奪った。特に、民間人の犠牲者数は軍人の死者をはるかに上回り、海と緑の自然豊かな島「沖縄」は無残にも焦土と化した。

私たちは、県民の皆さんとともに沖縄戦で亡くなられたすべての人々に心から哀悼の意を捧げ、戦争がもたらした惨劇と非人間性の実相を強く心にきざみ、鎮魂と不戦の誓いを新たにします。

終戦後、沖縄は、米軍占領に引き続き「日米講和条約」により日本国から切り離され、1972 年 5 月 15 日の本土復帰に至るまで、27 年間におよぶ異民族支配下に置かれることとなった。琉球政府発足後も自治は限定されて、軍事基地から派生する様々な問題で苦しめられている。この間、県民が島をあげて興した復帰運動は全国へと連帯の輪を広げた結果、悲願だった祖国復帰を果たしたものの、経済格差の克服、米軍基地の縮小の望みは、戦後 71 年経った今もなお、かなえられていない。

国土面積のわずか 0.6%に過ぎない沖縄県において、全国の米軍基地の 74%がいまだに集中しており、基地があるがゆえに起こる事件・事故などで県民の生命・人権・財産が脅かされ続けている。

今年の 5 月 19 日、沖縄県うるま市に住む日本人女性が遺体で見つかり、在日沖縄米軍軍属の元海兵隊員が遺体遺棄容疑で逮捕され、後日、殺人容疑で再逮捕された。またしても、米軍関係者による凶悪犯罪が繰り返され、在沖米軍に対する県民の不信と不安、憤りは一層高まっている。

連合は県民が安心して暮らせるよう、徹底した再発防止を日本政府に対して求め「沖縄の過重な負担の軽減」を進めるため、「在日米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本的見直し」を改めて強く求めていく。

「2016 年平和行動 in 沖縄」に結集した私たちは、沖縄戦の実相と悲惨さ、平和の尊さを学び、今後も粘り強く平和運動を推進することをここに誓い合い、アピールとする。

2016 年 6 月 23 日

連合 2016 平和オキナワ集会